

[ゲンロク]

2023
MAY
No.447
特別定価
1200Yen

[特別付録] 小冊子 BENTLEY Mulliner Derivative

EXTREME SUV

フェラーリ・プロサンクエの実力

[4年目の進化] ランボルギーニ・ウルス・ペルフォルマンテ & ウルスS日本初試乗

[最新SUV9連発] BMW X7 / BMW XM / マセラティ・グレカーレGT
メルセデス・ベンツ GLC / BMW iX5ハイドロジェン etc.



スーパーカー / NSX特選ショップ

ランボルギーニ新型V12ハイブリッド詳報

Built to inspire

Innovative design and high standard defines HYPERFORGED WHEELS.

Nothing is compromised in the making of these highquality wheels and it shows.

Travel in style with HYPERFORGED.

Made in Japan



LMC
Disc finish:Brushed Anodized Light Bronze Rim outer finish:Anodized Light Bronze/Gloss Rim inner finish:Anodized Black/Matte
12 Point Stainless Bolt Classical ContiSportContact6 F:255/30-21 R:335/25-22 Ferrari488Pista Spider
Special thanks :  www.ap-dank.com

HP-LMC



乾

いたエンジン音がこだまする。まるで恐れを知らない少年が、己の力だけを信じて、走り出す瞬間を今が今かと待ち構えているように。そこには躊躇なんて一切ない。スタートの合図が聞こえたら、空気を切り裂いて疾走するのみだ。正統派マセラティの新時代と評されたMC20がイタリアから日本にやってきた。彼の地の陽気さを彷彿とさせる大阪で、ジャパンメイトのエッセンスが加えられる。カスタムはリープデザインで行われた。

リープデザインのカーボンパーツをはじめ、パワークラフトのマフラーなど、日本のクラフトマンシップが息づく名品が次々と彼を仕上げていく。中でもハイパーフォージドのホイールを履いた途端、彼は少年から青年へと進化を遂げた。というのも、ハイパーフォージドにはクルマを大人っぽく仕上げてくれる不思議な魅力があるからだ。もう少しその魅力を掘り下げてみたい。

ハイパーフォージドは、ハイエンドのSUVからスーパースポーツにいたるまで幅広くその魅力を発揮する。特にLMCはメッシュデザインが特徴的で、切削加工が織りなす各スポークの造形が非常に美しい。2019年の登場以来、不動の人気を誇っているのも頷ける。今回MC20のパーフェクトマッチとして選ばれたのも、このLMCだ。

ブルーのラインを添えた爽やかな白ボディを引き立てるために、スポークからピアスポルトにいたるまで黒く落とし込まれた。とはいっても黒だからこそ質感がモノを言う。遠

HYPER FORGED LMC LEAP DESIGN Maserati MC20

イタリアの少年に授けられた

日本流・大人の余裕

目から見ると少しマットにも見えるこの黒は、ディスクはブラッシュド・ブラック・アナダイズド、リムはブラック・アナダイズド/グロスという仕上げが加えられ、鍛造削り出しならではの質感を訴えかけてくる。たくましくエネルギーでありながら、どこか大人の余裕みたいな雰囲気を出するのは、この質感なのかもしれない。MC20にしたって、少年のような若々しさを足元で少し

抑えつつ、伝統あるマセラティの血筋をにじませている。ハイパーフォージドの魅力として、サイズをはじめとしてディスクやリムの仕上げまで、数多くの選択肢が用意されていることが挙げられる。だからこそ、先に述べたようにタワーンカーだけでなくスーパーカーまで、それがカスタムカーであっても妥協せずに細かなオーダーメイドができるのだ。LMCの基本ラインナップ

は19〜22インチで、さらには車種を限定するが24インチという大口径も存在する。MC20の純正サイズは20インチだが、今回はより太径化および前後異径サイズとして、フロントに21インチ、リヤには22インチが選ばれた。それでも悪目立ちすることなく、全体の雰囲気にしっくりと馴染み、より重厚な落ち着きを与えたようにも見える。

アピアランスばかりを取り上げてきたが、それだけがハイパーフォージドの魅力ではない。クルマの持つ性能を存分に受け止める強度と剛性

い耐久性と信頼性にあると言っても過言ではないと思う。

さあ、MC20がスタートを切る用意は整ったようだ。今度は己の力だけを信じるのではない。少し大人になった少年は、自分以外の誰かの力を借りることを覚えた。相変わらずそこに躊躇が入る隙はない。むしろますます自信をみなぎらせて、思う存分駆け抜けられる。自分にパワーを与えてくれるメイト・イン・ジャパンのパーツに、ホイールに、全幅の信頼を寄せて。



黒いボンネットダクトウイングの稜線が筋肉質なボディにアクセントを加える。捻れ剛性と曲げ剛性に優れているカーボンファイバー製モノコックは100kg以下の軽量を誇る。



切削加工で鋭利に仕上げられたスポークは光の当たり方や見る角度によって毎回異なる表情を見せる。コンケーブデザインが全体に抑揚を与え、そこからリムエンドに向かってスポークが立体的に造形を描く。フロントはセミコンケーブ、リヤはディープコンケーブがセットされている。



右：パワークラフトが開発したレーシングストレートキャタライザーとハイブリッドエキゾーストシステムを装備。外観と性能、サウンドを底上げするクラフトマンシップがここにもある。左：リープデザインオリジナルのカーボン製リヤスポイラー。

